

和歌山 フェイク アワード

考古学におけるフェイクの世界

フェイクは、なぜ作られたのか？
製作背景と技術に迫る！

フェイク【fake】

- ①実物ではないもの
- ②偽物；模造品；模倣品；レプリカ

2024

7/13 sat

9/8 sun

製作された背景や活用事例をふまえ、来館者の皆様の投票をもとに、優れたフェイクを決定します。

投票期間：2024.7.13 ㊦～8.25 ㊨

結果発表：2024.9.1 ㊨（展示講座内で発表・表彰）



馬首



圭頭太刀



縄文土器



勾玉



銅鏡

フェイクは、なぜ作られたのか？ 製作背景と技術に迫る！

考古資料には、様々な“フェイク=実物ではないもの”が作成されました。フェイクには、偽物、模造品、模倣品、贋作、レプリカといった様々な種類があり、それぞれの意味も異なります。

フェイクの始まりは先史時代までさかのぼり、当初は祭祀の道具や身代わりであり、実物とは異なる素材で作られました。また、産業の発達とともに、陶磁器の模倣品や写しが盛んに作られました。

その後、近代以降には、骨董的価値の追求から考古学の専門家たちの目を欺くほど精巧な贋作が作られ、その一部は現在も伝えられます。

一方、博物館展示や学習用教材では、理解の促進やハンズオンとして利用を目的としてレプリカや模造品が用いられ、近年では復元や記録としての高精細レプリカの価値も見出されています。

本展示では、様々なフェイクを展示するとともに、その製作に係る技術や背景に迫るとともに、来館者の投票をもとに和歌山フェイクアワードを決定します。第1章では、フェイクの歴史を展示し、製作技術や製作背景について実物と比較しながら紹介します。また、第2章では、模造や3次元計測、型取り、復元などによる、最新のフェイク技術と活用事例を紹介します。



左：大日山35号墳出土
両面人物埴輪(重要文化財)
右：実物大立体パズル
ハンズオン展示・復元体験

第1章 フェイクの歴史 人はなぜフェイクを作るのか

- 1) 祭祀と模造品
- 2) 模倣・模造の産業
- 3) 横行する贋作づくり
- 4) 学校教材としてのレプリカ
- 5) 博物館資料としてのレプリカのはじまり

第2章 博物館におけるフェイク～レプリカのチカラ～

- 1) 模造によるレプリカ
- 2) 剥ぎ取りによるレプリカ
- 3) 型取りによるレプリカ
- 4) 3次元計測によるレプリカ
- 5) 復元としてのレプリカ
- 6) 記録としてのレプリカ

展示講座② 夏期企画展示と和歌山フェイクアワードの発表

対象 小学生以上

定員 30名

参加費 資料館入館料+資料代 100円

受付開始日時 8/16(金) 13:00～ ※定員になり次第終了。

申込み方法

- ・電話で申込む。(TEL 073-471-6123)
- ・紀伊風土記の丘資料館受付で直接申込む。
- ・ホームページから申込む。

※当館ホームページ【近日開催イベント】より応募フォームにて申込みください。
※応募フォームのリンクは【受付開始日時】以降に表示されます。



↑申込みはこちらから↑

■開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）

■休館日：毎週月曜日（7/13 月祝・8/12 月祝は開館、翌々休館）

■入館料：一般 190円（150円）/ 大学生 90円（70円）（ ）内は有料入館者20名以上の団体料金

※高校生以下、65歳以上、障害者手帳等をお持ちの方および県内在住の留学生は無料（要証明書）

和歌山県立
紀伊風土記の丘

〒640-0103 和歌山市岩橋 1411
073-471-6123